



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 8 年 5 月 22 日

岡 山 大 学

シルクロードの要衝ソグディアナから、2つのゾロアスター寺院を発見！ ～壁画や後漢鏡など国際色豊かな文化が明らかに～

◆発表のポイント

- ・ウズベキスタンの2遺跡において、ソグド人らが信仰したゾロアスター（拝火）寺院を発見。
- ・寺院の祭壇から、東アジアとのつながりを示唆する後漢鏡「四葉座内行花文鏡」が出土。
- ・極めて希少な壁画も残存。東西文化の融合がうかがえる。
- ・6月2日まで国立民族学博物館の特別展で発掘成果を展示中。

岡山大学学術研究院先鋭研究領域（文明動態学研究所）の村上智見助教およびサマルカンド考古学研究所、ベルリン・ブランデンブルク科学アカデミーから成る国際共同研究チームは、シルクロードの要衝であるウズベキスタン共和国のクルドル・テパ遺跡およびクルゴン・テパ遺跡において、5～8世紀初頭に機能していた2つのゾロアスター（拝火）寺院の遺構を発見しました。

今回の調査では、同地域において類例の少ない寺院を相次いで2件発見するという重要な成果を上げました。さらに現地からは、ササン朝ペルシア風の人物や草花文が描かれた貴重な彩色壁画や、金製装飾品、銀貨、日本にも多く伝わる後漢鏡「四葉座内行花文鏡」なども発見されました。この鏡は元素分析の結果、中国の一般的な鏡とは異なる組成を持ち、これまでに類例のない波状文がみられるのが特徴です。そのため、西域において製作された「模倣品」である可能性もあり、極めて重要な発見です。

これらの発見は、ソグディアナの人々が単に西域文化を東へ運ぶだけでなく、各地の文化を取り入れ、独自の文化を発展させていたことを物語る貴重な発見です（本成果は第31回・第32回・第33回西アジア発掘調査報告会にて発表されました）。

今後はさらに調査を進め、西域文化の実態と、日本を含む東アジアの文化にどのような影響を与えたのかを明らかにしていくことを目指します。

◆研究者からのひとこと

ウズベキスタンと聞くと遠い異国の地と感ずるかもしれませんが、見つかった鏡や、壁画に描かれた人物が戴く冠の表現は、日本にも伝わってきたものでした。文化はつながっているのだと改めて実感させられる発見です。

6月2日まで国立民族学博物館で開催中の特別展『シルクロードの商人（あきんど）語り—サマルカンドの遺跡とユーラシア交流—』では、今回発見された寺院の発掘成果と出土遺物が展示されており、四葉座内行花文鏡の実物もご覧いただけます。シルクロードを行き交った人や文化のエネルギーを、ぜひ会場で体感してみてください！



村上助教



PRESS RELEASE

■発表内容

<現状>

ユーラシアを東西に結ぶシルクロードの要衝である中央アジアのソグディアナで国際的な交易活動を担っていたのが「ソグド人」です。しかし、彼らがどのような都市を築き、どのような社会や文化を持っていたのか、その具体的な実態については未解明な点が多く残されています。

<研究成果の内容>

岡山大学の村上智見助教らの国際共同研究チームは、ウズベキスタン共和国の「クルドル・テパ遺跡」および「クルゴン・テパ遺跡」において、5～8世紀初頭に機能していた2つのゾロアスター（拝火）寺院の遺構を発見しました。類例の少ない寺院遺構が相次いで確認されたことは、世界的に見ても極めて重要な成果です。

<社会的な意義>

さらに、当時の国際交流の様相や、文化・宗教を知るうえで貴重な遺物が多数出土しています。

1. 彩色壁画

寺院にはササン朝ペルシア風の人物や、草花文などを描いた壁画が残存していました。文様を確認することができる壁画の発見は大変希少です。科学分析の結果、アフガニスタン原産のラピスラズリ（青）などの様々な顔料で寺院空間を鮮やかに彩っていたことが分かりました。

2. 後漢鏡『四葉座内行花文鏡』

日本にも伝わる中国鏡「四葉座内行花文鏡」が確認されました。これまでに確認されている一般的な中国鏡とはやや異なる特徴がみられることから、西域で作られた「模倣品」の可能性もあります。東アジアの文化がソグディアナにまで届いていたことを物語る、極めて貴重な発見です。

3. 宝飾品

赤い貴石をはめ込んだ四弁花文形やハート形をした金製装飾品が出土しました。アフガニスタンのティリヤ・テペ遺跡出土品を彷彿とさせるこれら精巧な金工品は、黄金文化の伝播を明らかにする上でも重要な発見です。

これらの成果は、第31回・第32回・第33回西アジア発掘調査報告会にて発表されました。

■論文情報

論文名：ソグディアナの都市を探る—ウズベキスタン共和国クルドル・テパ遺跡発掘調査（2025年度）

掲載誌：令和7年度考古学が語る古代オリエント—西アジア遺跡調査報告会報告集

著者：村上智見、ベグマトフ・アリシエル、サンディボエフ・アリシエル、アリモフ・ナヴルズ、ベルディムロドフ・アムリディン、寺村裕史、宇野隆夫、末森薫

URL：<http://jswaa.org/wp/wp-content/uploads/2026/03/report23-murakami.pdf>



PRESS RELEASE

論文名：ソグディアナの都市を探る—ウズベキスタン共和国クルゴン・テパ遺跡発掘調査（2024年度）—

掲載誌：令和6年度 考古学が語る古代オリエント—西アジア遺跡調査報告会報告集

著者：村上智見、ベグマトフ・アリシエル、サンディボエフ・アリシエル、マハマディエフ・ガイラット、ベルディムロドフ・アムリディン、レウトヴァ・マリナ、アリモフ・ナヴルズ、スブホノフ・フェルズ、寺村裕史、宇野隆夫、末森薫、押鐘浩之

URL：<http://jswaa.org/wp/wp-content/uploads/2025/02/2d371e7070cb85a6e7f815b1049a3f98.pdf>

論文名：ソグディアナの都市を探る—ウズベキスタン共和国クルドル・テパ遺跡発掘調査（2023年度）—

掲載誌：令和5年度 考古学が語る古代オリエント—西アジア遺跡調査報告会報告集

著者：村上智見、ベグマトフ・アリシエル、サンディボエフ・アリシエル、マハマディエフ・ガイラット、アリモフ・ナヴルズ、ベルディムロドフ・アムリディン、寺村裕史、宇野隆夫、末森薫、押鐘浩之

URL：<http://jswaa.org/wp/wp-content/uploads/2024/01/112-116-22-murakami.pdf>

■研究資金

本研究は、JSPS 科研費（JP23K00928、JP23K25400）、三島海雲記念財団、およびクリアハンドレル・イゴル氏の支援を受けて実施しました。

■補足・用語説明

- ・ソグディアナ：現在のウズベキスタンとタジキスタンにまたがるアム川とシル川に挟まれた地域を指します。ここを本拠地としたソグド人は、シルクロード貿易で大活躍しました。
- ・ゾロアスター教（拝火教）：古代ペルシアで興った火を祀る宗教です。漢字では「拝火教（はいかきょう）」とも表記されます。ソグディアナのゾロアスター教は土着の特徴を有していました。

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院先鋭研究領域（文明動態学研究所）

助教 村上智見

（電話番号）086-251-7290

（FAX）086-251-7290

